



編輯部報情閣内
ンセ十・號八十四第・日八十月一

洞島
報眞

送る
10.



大命を拜して

内閣総理大臣 平沼騏一郎

支那事變は既に第三年を迎へ、著
 著戦果を収めて今や新しい段階に人
 りました。是れ偏へに御稜威の下、
 忠勇なる將兵諸士の奮闘と銃後國民
 の熱誠とに依るものでありまして、
 定に感激の外ありません。殊に長期
 に亘り各地に轉戦し、幾多の艱難を
 克服し而も連捷を重ねつゝ、ある我が
 將兵の方々に對しましては心より感
 謝致すと共に、護國の英靈に對しま
 しては深く哀悼の意を表する次第で
 あります。

支那事變に對處すべき帝國の方針
 は、畏くも 聖斷を仰ぎ奉りました
 確固不動のものが存するのでありま
 す。前の内閣は之に基いて諸般の施
 策を進めたのでありますが、新内閣
 に於きましても勿論此の不動の方針
 に基きまして、あくまで所期の目的
 達成に一路邁進するのみであります

固より時局の前途が愈々多難なる
 べきことは察するに難くないのであ
 りますが、此の難局を打開し光明あ
 る前途を拓く爲には、國家の總ての
 力を此の目的貫徹に集中すべきは言
 を俟たざる所であります。従つて今

後の政策の重點は綜合國力の擴充に
 置き、廣く世界の形勢を注視して之
 が運用に當りたいと思ふのでありま
 して、既往に泥まず、新奇を銜はず、
 専ら國家總動員態勢を強化して内外
 各般の國策遂行に當るつもりであり
 ます。

申すまでもなく、我國の政治の基
 礎は、全國民が如何なる職業にあつ
 ても各々その分を盡して皇室を輔翼
 し奉る萬民輔翼に存するのでありま
 す。それ故に假令如何なる國難に直
 面しても却つて益々一致團結、國體
 意識を強化して之を克服し來つたの
 であります。先般の開院式の御勅語
 の中に仰せられた如く、此の傳統的
 國民精神の昂揚と國家總力の發揮と
 と、東亞に於ける新秩序の建設とい
 ふ大業を完成する最も大事な要件で
 あります。

私は大命を拜しました上は、聖旨
 を奉體し、粉骨碎身、御奉公申し上
 ぐる決心であります。全國民諸君に
 於かれましても、此の心事を諒とせ
 られ、舉國一致、協力せられむこと
 を切望して已まぬ次第であります。



破突圓億九

—高約契—

(末月十)

ボクタクチハ
 フコクノ
 チョウヘイホケン
 シュツセホケン
 ハイシテユス

富國徵兵

谷比日・京東 社本



撮影 吉田 潤

Ⓛ 蜿蜒と連なる長城を望むの砲弾穴から眺む。次の望楼、その次の望楼とどれもこれも無様に破壊されて、土も草も血に染めて突如したのが奮戦のあとがそよる俤はれる。

Ⓜ 京畿線が河北から察南に人らうとする省境に奇蹟といふ小群がある。長城が目前に迫ってきてゐる。寒いプラウトホームにわが警備兵から立つてゐる。大きな包みを背負つた支那の農民が三人、警備兵に謝辭儀をして汽車に乗込んだ。

八達嶺に立つ

一昨年八月下旬、わが〇〇部隊、〇〇部隊の勇士たちが、名にし負ふ万里の長城を築き立て、今や八達嶺に立つてゐる。二萬三千里と内なる東洋を走り、運んで来た八達嶺の壁に、平明三年の春に建てられた。

戦後兵は今もなほ時々出立するので、わが勇士は切るやうな羽風の中を奮闘してゐる。然し、わが上谷以来一千年前、東洋軍政の勢力は北平と南を結ぶ上京線を築き、運送の要路を六百里の間に築き、戦車は走つてゆく。運送沿線の村落には住民も増え、牛馬の糞、道の傍へも去年よりは遙かに厚くかになつた。男は行く北支、戦後を築き入る。道の傍から眺むると、東支の壁を身に見る。

Ⓛ 猛戦のあとを物語る城壁の跡に毅然と立つわが警備兵。身を切る朔風をぐつとこらへて新支那の平和を讀む勇士の顔は鋭い。

Ⓛ 驢馬を引く農夫、小牛を追ふ少年が部落から現はれた。春はまだ浅いがほのかに土の香がする。農夫も少年も旅行者にこやかに挨拶してゆく。彼等にも生活の喜びが生れたのだらう。



陸の艦隊 戦車隊

陸軍戦車学校



陸軍では次の戦ひに備へて勇猛果敢な戦車隊員の教育、充實に力を用いてゐるが、千葉市の陸軍戦車学校には、戦車隊歩兵連隊から選抜された優秀な将兵が連日隊室の中を油まみれになつて訓練をうけてゐる。

急勾配昇降の訓練、やうりとならんだ練習用戦車はいま教官の「進め！」の指令を持つてゐる。猛牛部隊は山も川も勇取に突き進まねばならぬ。

戦車隊員にとつて整備といふ作業は最も重要なもの、一つだ訓練がすめば泥によつた車體を洗ひ、殊に機關を完全に整備してをくために、晩飯を食ふことも忘れて働きつづける。若し萬一機關に故障が起れば猛牛も全くその機能を失つてしまふからだ。

撮影 加藤 泰平



操作、戦闘の訓練がすめば、速く演習地に行軍を行つて、實戦死の演習をや。白雪に覆はれた露峰富士の裾野に戦車隊形をとつた猛牛部隊は今や特に果敢な突撃を試みようとする。



近代戦と戦車

陸軍省情報部

戦車の本領は卓越せる機動力、火力、踏破力並に装甲威力に依り率先敵を壓倒蹂躪し、友軍の志氣を鼓舞作興し、以て全軍戦捷の途を拓くに在りとはわが國の戦車隊教練規定の總則第一に明示してある所であるが、歩兵に數倍する速度をもつて地上を疾驅し、鋼鐵の無限軌道に駆繰り急坂森林や鐵條網を踏破踏躪し、雨と降り注ぐ敵弾を厚い装甲板に拂ひのけ、敵陣の中に飛びこんで機關銃や大砲の弾を敵に浴びせかけ踏みこみ、縦横無盡に暴れまはる姿は天魔鬼神ともいふべく、地上の怪物、近代戦の花形といはれるのも無理はない。この戦車が始めて戦場にその勇姿を現したのが歐洲大戰の時であつて、開戦三年の秋英軍がひそかに準備した所謂タンクを、西部戦線の北翼に近いパボム戦場に使用したのを嚆矢とし、その後各所の戦場に使用されたが、獨逸はこの機體時代の戦車の缺點を指摘するに急であつて、その利點を伸ばす事を忘れ、大したものでないといふ、參謀をくつて居た間に、英佛軍では鋭意研究をつみ、且極秘裏に多量にこれを整備した。その結果一九一八年夏獨逸軍の乾坤一擲の大攻勢に際しては新型戦車が佛軍の陣頭に突進の姿を現して獨逸軍を叩きつふし、引き續き八月には英佛聯合して四百臺の戦車を陣頭に押し立て、攻勢に轉じ、獨逸軍の戦線を突破してこれを東方に壓し、遂に休戦を乞ふのむなまきに至らしめ、歐洲大戰に最後のとどめを刺したのである。

この偉大な威力に驚いた列強は、大戰後智識を傾けて戦車の研究を積み、發動機關の發達と冶金術の進歩とは相俟つてこれに長足の進歩を遂げさせた。即ちその速度に於て、火力、装甲威力に於て往時の比でなく、最近においては水陸兩用戦車土龍戦車、跳躍戦車、飛行戦車等迄現出し、今や地上兵器中に於ける最新科學最新技術の粹として戰車に比肩するものはないのである。將來戦に於ては機關銃數は益々増加し、軍の主兵たる歩兵が突撃を以て敵を驅逐しその陣地を奪取するには、如何しても此の殺人吸血機關銃を擁護せねばならぬのであるが、これに最も適した兵器は戦車である。また長期戦の不利を避け、戦捷を早く決勝に導き、速戦速決の利を收めるものは奇襲的に敵に大打撃を與へ、又廣大なる地域に亘り隨時隨所に偉大なる戦力を集中發揮出来る戦車が絶対に必要なのである。

わが國の戦車の研究は英佛より遅れてゐたが、關係當局の熱心な研究と製造業者の非常な努力とによつて最近長足の進歩を來し、今や先進國を凌駕して世界の脊骨となつてゐるのである。今次事變に於て如何に戦車が偉大な効果を發揮し、全軍戦捷の途を拓いたかは北支、上海、徐州、廣東、武漢の諸作戦に於て國民が齊しく認める所である。然しながら如何に戦車が技術的に優れてゐようともこれを動かす將兵の能力が劣つてゐれば何ものならぬ事ばかりの張鼓事件に於て蘇軍戦車數十臺が空しくわが軍のために撃潰されて何等の効果をも來さなかつた事でもわかる。わが戦車の威力は傳統の大和魂を體し、日夜猛訓練によつて鍛へられた將兵に使はれる事によつて、益々その威力を發揮するのであつて、かの昭和の軍神と仰がれる故西住大尉の如き戦車の生んだ精華であるが、この精神はまた皇軍戦車隊の全將兵が齊しく持つて居る所である。

現在蘇聯はその巨大なる重工業力を傾けて飛行機と戦車との擴張に努めてをり、その現有兵力は僅に七千臺を超え、戦綫に際してはその莫大なる戦車を以て敵陣地の全縱深を同時に制壓し(所謂面的攻撃)、又空中より敵の後方に兵力を輸送して立體包圍を行ひ、一舉に勝を制しようとしてゐる。帝國の東亞總領の進捗に伴ひ北方の風雲は日にまし急となりつゝあり、帝國が東亞新秩序建設の國是を完遂する爲には急速に軍備を擴充整備するの要があるのであるが、戦車隊の擴充はこの重要ポイントとして航空兵力の擴充に次いで急務中の急務と思はれるのである。

軍神、西住大尉



戦地に活躍當時の軍神西住大尉

軍神西住大尉が徐州の野に華と散つてから八ヶ月、その輝かしい戦功、偉大なる軍人精神はいまわれら一億国民の感激と崇敬の的となつてゐるが、こゝに掲げる原稿は西住大尉の當時の部隊長であつた細見大佐が、昨年十二月二十六日夜借しい部下を偲ぶ切々たる情をこめて東京中央放送局から全国に放送された軍神の思ひ出である。



軍神西住大尉の部隊長であつた細見大佐(右)と、陸海軍通譯に偉勳を樹てた岩仲戦車隊長岩仲義治大佐

西住大尉が戦死を致しまして丁度七ヶ月、上司の指示によりまして只今「マイク」の前に立ち大尉の思出を語りまします。當時の部隊長として誠に重なることと存じます。然しながら西住の性質を知りまします私は、西住がこの事を欲して居ないのでないかと深く懸念する次第であります。これから後大尉の精神を顧念して下されまする方々においても能く西住大尉の本當の精神や性格を把んで頂きたく御願を致します。

大尉は昨年八月戦車隊長として出動、寶山山の戦場を初陣として羅店鎮、大場鎮、南翔、南京の戦場を経て本年春徐州會戦に於て戦死したのであります。この間周家宅の激戦で戦車隊を突破して敵の後方陣地に殺到しましたこと、羅店鎮の手前敵の

車から飛び出して偵察し、通過地點を発見しましたので、戦場中の隊長戦車に向つて走つて行きました。この時です。敵の狙撃を受け、戦車右内股に命中し衣類に入れた時計(今私に持っています)が宙を舞つてゐます。腕から表に飛び出て動脈を破りました。大尉は遂に畑中にと倒れました。然し氣丈な大尉は近く隊員に一負傷は敵部隊の核ですから大丈夫です。部隊は左の方から敵を攻撃して下さり一と息を述べ、戦車の中に逃げ込まれましたが出血甚しく、乗務員必死の手當も及ばず、だんだん力が抜けて、再び立つ能はざるを目撃したのであります。自分介抱中の高松上等兵に、「これは西住大尉の教育した初年兵です。一箇前連と僅か一年で別れるとは思はなかつた。自分が居なくなつても平素自分が言ふてゐた軍人の魂、軍人精神を基として、小隊長始め各幹部が教へて來た、立派な軍人にならなかつたらん」と言つておりました。態々死か目録の間に廻りますや、目若くも取り亂すことにな、次の最後の言葉を遺しました。當時戦車は轟轟、眞暗な畑中を一意本部の位置に走つて居ります。その中で一部隊隊長、隊長殿、西住は御先に満足して往きます。しつかりやつて下さい。



御母様、小次郎は御先に往きます。自分は満足して居りますが、御母様は御人へ淋しと思ひます。可愛かつて頂下さい。姉さん色々御世話になりました。弟、立派に、尚言葉が若干あります。が已に力なく、又戦車の音で聞き取ることが出来ません。

天皇陛下風流を三唱し奉り、後は一語なく、遂に常に生死を共にしたるその戦車の中で、眞に従容として名譽の終焉を遂げたのであります。部隊の至誠西住は、壯烈なる戦死を遂げたのであります。年僅かに二十有五。噫！

一月八日戦兵式を執へ、市中を行進した戦車隊は最後に今は亡き戦友の英霊を弔ふため靖國神社に詣つた。



砲兵陣地附近に突進致しましたこと、その他白蠟攻撃に敵を粉砕し、張家樓下宅の戦場、敵の遊撃部隊の只中に唯一車を以て跳り込み、大場鎮突破後の追撃戦に最先頭を以て蘇州河に進出し、南京の攻略戦に中華門外に奮戦致しましたことなど、大尉の勇敢なる行動の思ひ出は誠に盡きないのであります。その中、大尉の如何なる人物でありましたかを能く窺ふことの出来まします南翔羅店鎮の戦場の一部を申し上げます。

昨年十月三十一日、大尉は隊長代理として戦場に参加しました。戦線に堅固に守備する戦車隊に率先突入、歩兵の突撃を誘導しましたが、戦車中目に暴れて戦車の戦場は困難になりました。敵はこれに勢を盛り返し、猛烈な射撃と肉迫攻撃を致します。で、味方の歩兵には死傷者が續出して、敵の第二線第三線への突撃は感々困難になつて参りました。大尉はこの状況を見て、断乎敵の陣内に踏み止まつて戦場を維持したのであります。暗の中に活潑に動く大尉の戦車は自然敵の目標となり、敵弾雨の如く降り置き、装甲板に命中する弾丸は砕けて火花と散り舞ひ、戦車から見た大尉の戦車は、火柱の様に見えた兵隊が後で申して居りました。今東京に送り返へ

これより先私は、主力の戦場を終へて夜九時頃歸つて来ました。その時朝から高橋隊に連絡に出して居りました品川大尉が大急ぎで歸つて来ました。人を拂つて特に小さい聲で、西住重傷、ここに來る迄危いらしいと云ふことを告げます。部隊としては重大な事でありました。

戦車は向も大尉の遺骸を乗せたまま、眞暗な畑中を運送に奮進を續け、落命後三十分にして本部位置に到着致しました。然し既に親愛敬慕するわが西住中尉は去つて呼ばずと答へずでありました。戦車から解かずに外に出されて、眠る西住の遺骸の周圍には忽ち隊の將兵が集まりましたが、有見感懐を押へて唯々黙して見守る許りでありました。敵襲、敵襲の報告を受けつた、敵陣の下に他の戦死者と共に西住の遺骸を守つたあの周大庄の一夜は、終生忘れられることの出来ぬ思い出であります。

大尉は熊本縣甲佐の人、故歩兵大尉西住三作氏の子であります。陸軍士官學校第四十六期生であります。士官學校入校の時既に今日ある覺悟しておりました。茲に昭和八年一月父から小次郎宛の手紙があります。大尉が特に赤線に附しておる所を朗讀致します。一進級などを目當にしてはなりません。唯々一途に己れが本分を盡すと云ふ考へて學業を專するは、いけません。若し將來戦死でもすれば戦後結核です。私は御前さんが歸下になつた時以上の満足を得る理です。私を忘れて奉公の覺悟で奮闘される様を望みます。父より、小次郎一とあります。出征前母堂に今度は生還を期せざるを誓ひ、陣中左の二首を撃つて愛唱して居りました。

武夫の誓なりけり大尉の親思ふ心に優る親心 今日のおとづれ何んとも聞くらん又、平素何時戦死しても差支へない様に、身の廻りを整理して居りましたことは、大尉の近くに居した兵が感心して居りました。戦死後、行李を見まするに、三十回に餘る小隊の部下の功績は詳細に整理してありました。實に立派な覺悟で、従軍死に就いた戦死の情況と思ひ合せて、感銘深いものがあります。

茲に親愛敬慕する西住大尉の英靈に對し、謹みて誠を捧げて誦言を終ります。

西住大尉戦死の報をきいた大尉の母が細見部隊長に宛て、送つた書簡

上かつた、上かつた」と繰り返して堅く山根の手を握つて、後は涙で次の言葉が出ない。山根は「御心配かけました。小隊は無事後尾に到着致しました」と報告は致しましたが、これも亦感傷つて泣いてしまつたのであります。午前一時頃と記憶致します。大尉は漸く歸つて来ました。陳家白堊といふ部落の平澤支那家屋の中で待つて居た私の所へ報告に來ました。一ロケットの光に照らし出された大尉は雨の爲めに頭からじつくり濡れて油と泥で汚れた顔には、戦車帽から垂れる幾條かの雨しづくが光つて、その充血した眼と共に如何に今日の戦場が恐ろしくあつたかを一目に感ぜしむるものがあつたのであります。大尉は黙然と戦場の情況、死傷者の報告を終へてから戦車帽を脱ぎ、雨のしづくを打ち拂ひながら「何うも大變な事になつて御心配をかけました。今日は早く夜になつて、射撃も運動も出来なくなりました。歩兵が今晩中にある陣地を奪らなければ明日は非常に苦戦をするつもりと思ふた。又歩兵の苦勞を見ては、何うしても引上げる氣にはなれなかつたので、無理な戦場とは思ひました。が戦場を離れました。歩兵が戦車、戦車と頼りにしてゐましたので、今日は淋しがつて居るでしょう」となどとして居りました。

ふと氣がつくと大尉は顔に、手の甲に、左腕に、敵の弾片を受けて負傷して居ります。而もこれに對しては「傷たやられませんでした。脚は少し痛みますが、大したことありません」と、こゝこゝと笑つて今迄の緊張は何時の間にか解けて、炭火の側で山根小隊行方不明の時のことを宛談を交へて話しながら自傷の手當を受けました。翌日は板ぎれで作つた下駄を穿き、杖をついて、野戦病院に部下の重傷者を見舞ひ、終日沈滞にまつて居りました。西住大尉、西住大尉はこんな人物でありました。次に大尉戦死の情況に就いて申述べます。

本年五月十七日、大尉の屬する高橋隊は、徐州戦場附近に於て敵を攻撃しましたが、敵前突然一クレーターにぶつかりました。大尉は勇敢にも車身破

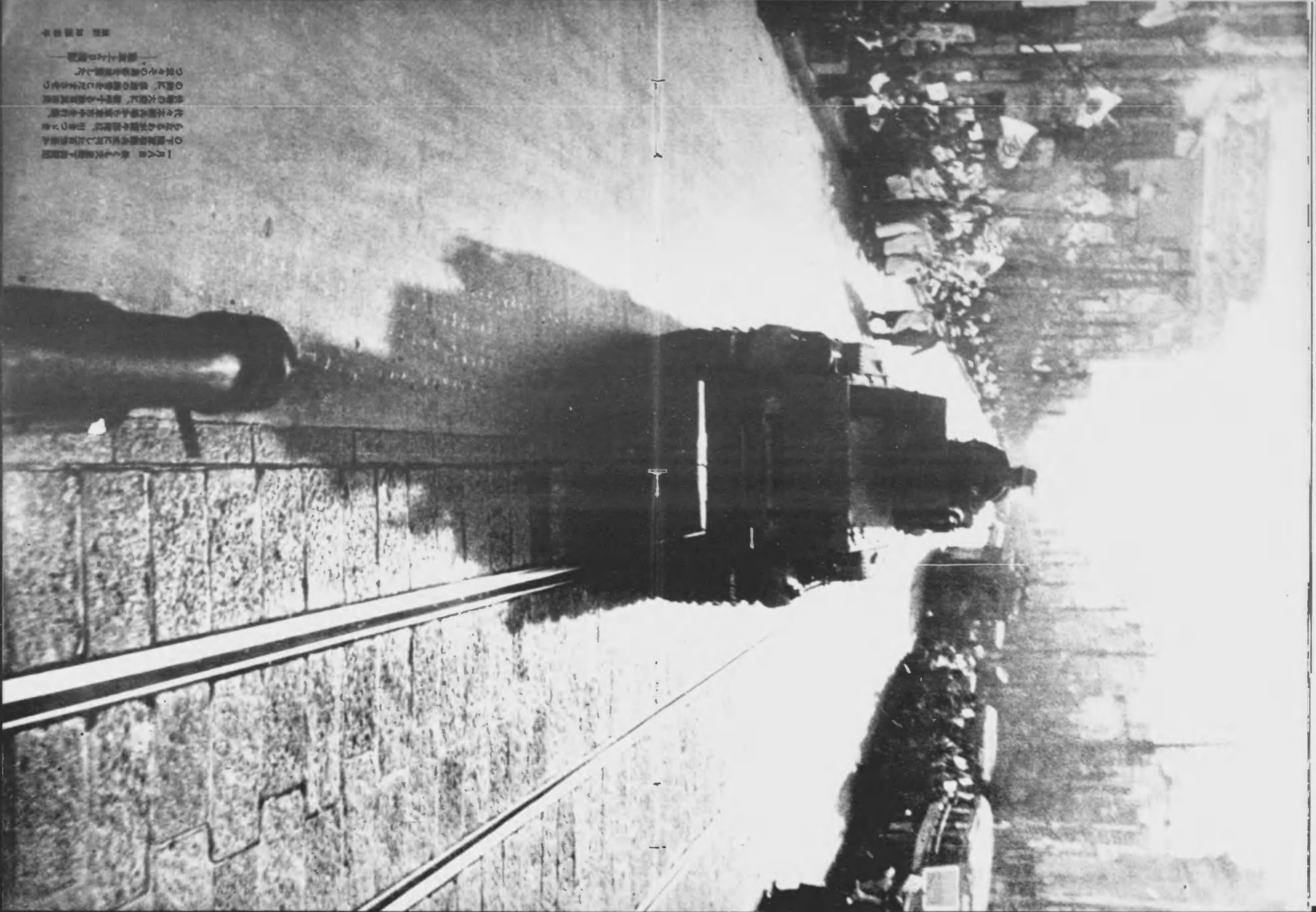
英因ソ聯の援支を抗日する意を遂行

南京一番乗りを機で迎へた昨年の正月、軍神がその燃える意氣を示した最初の

細見大佐の書簡

1904年 露清戦争

1904年 露清戦争
 ① 奉天 (現在の遼寧省瀋陽市) の戦い
 ② 旅順 (現在の遼寧省旅順口区) の戦い
 ③ 大連 (現在の遼寧省大連市) の戦い
 ④ 遼陽 (現在の遼寧省遼陽市) の戦い
 ⑤ 長春 (現在の吉林省長春市) の戦い





芝生のお庭に生まれ、ぼか〜と小春日和のやうに暖かい。
 内地は平和な年の暮。日本の姉妹も支那の姉妹も同じ心、同じ服。楽しそうに日本ではじめてのお正月をあ〜かしら〜とあしやべりに花が咲く。
 八日から學校が始まった。新東亞建設といふ大きな目標に向つて小さい私たちが眞剣に努力しよう。日本語の勉強の時間。

共に言葉を學び、共に生活を學び、共に技術を學ぶ。北京の生活學校は昨年五月創立されて以來、教育の部門から大陸の長期建設に積極的に協力してきた。ここに集まつた中國の少女たちは大地主の娘でもない、大金持のお嬢さんでもない、極く平凡な北京の家庭の少女たちだ。今までの誤つた抗日教育をすて、新しい東亞建設のために手と手をしつかりと進つたのだ。そして半年の勉強の後、このお正月からあこがれの日本のお姉さんたちのある東京の自由學園に留學してある。大きな、胸を小さな胸に秘めて。留學生たちが東京についたのが去年の暮、十二月二十一日、はじめての日本で日本の姉妹たちに温かくとりかこまれて、彼女たちはどんな年の暮を過し、どんなお正月をすごしたらうか。



今日のおひるは自由學園の卒業生を八十人も御招待する。御料理は本場の支那料理。買ひ出しから何までみんな自分たちの手でやつた。仕度する心もいそ〜と。
 自分自身は一切入手をかりすに自分です。責任あるハウスキーパーがその日々の生活への精進だ。生活を楽しくするには拭掃除もふとん干しも忘れず自分の手で。
 撮影 内閣情報部

日本に生活する少女たち





外はつめたい師走の風だが、内はあか
あかとストーヴがもえる。自信のない手
料理を日本のお姉さんたちにおいしく召
し上つていただけるかしら。

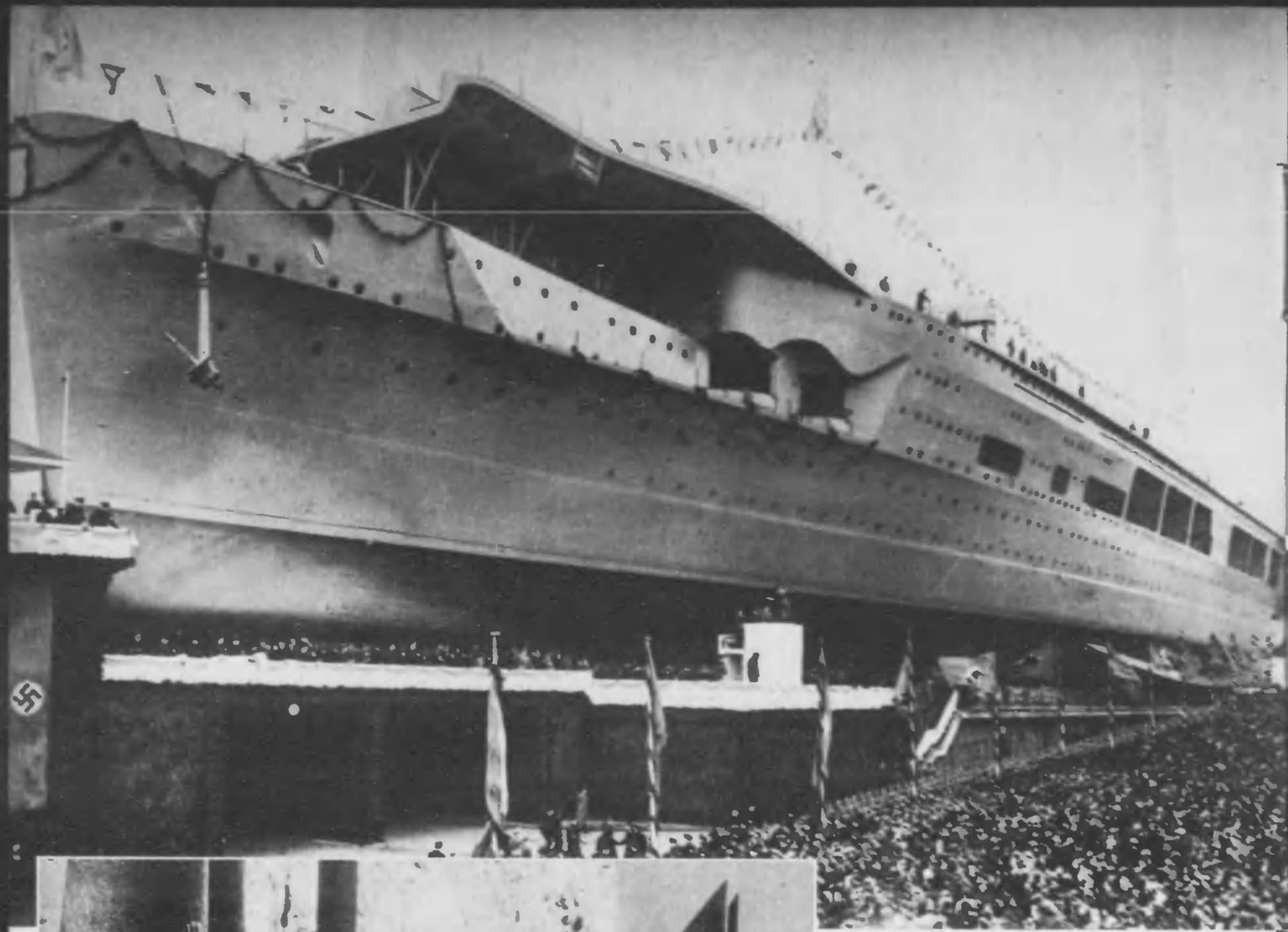
学際長の羽仁先生からそとなく「羽子板
をいたゞいて無性によろこぶ彼女たち
追羽子の音がやえる。上臈してまつ赤
なほつべた。

お正月休みにとこれも先生からいたゞ
いたろはかるた。
かるたの意味はよくわかるんだけど、
肝心の手の方はなか／＼先に出ない。



静かな冬の夜、自習室の留學生
たち北京におるお父さんやお母
さんのところへ楽しい日課のハガ
キ通信を今だしたところ。



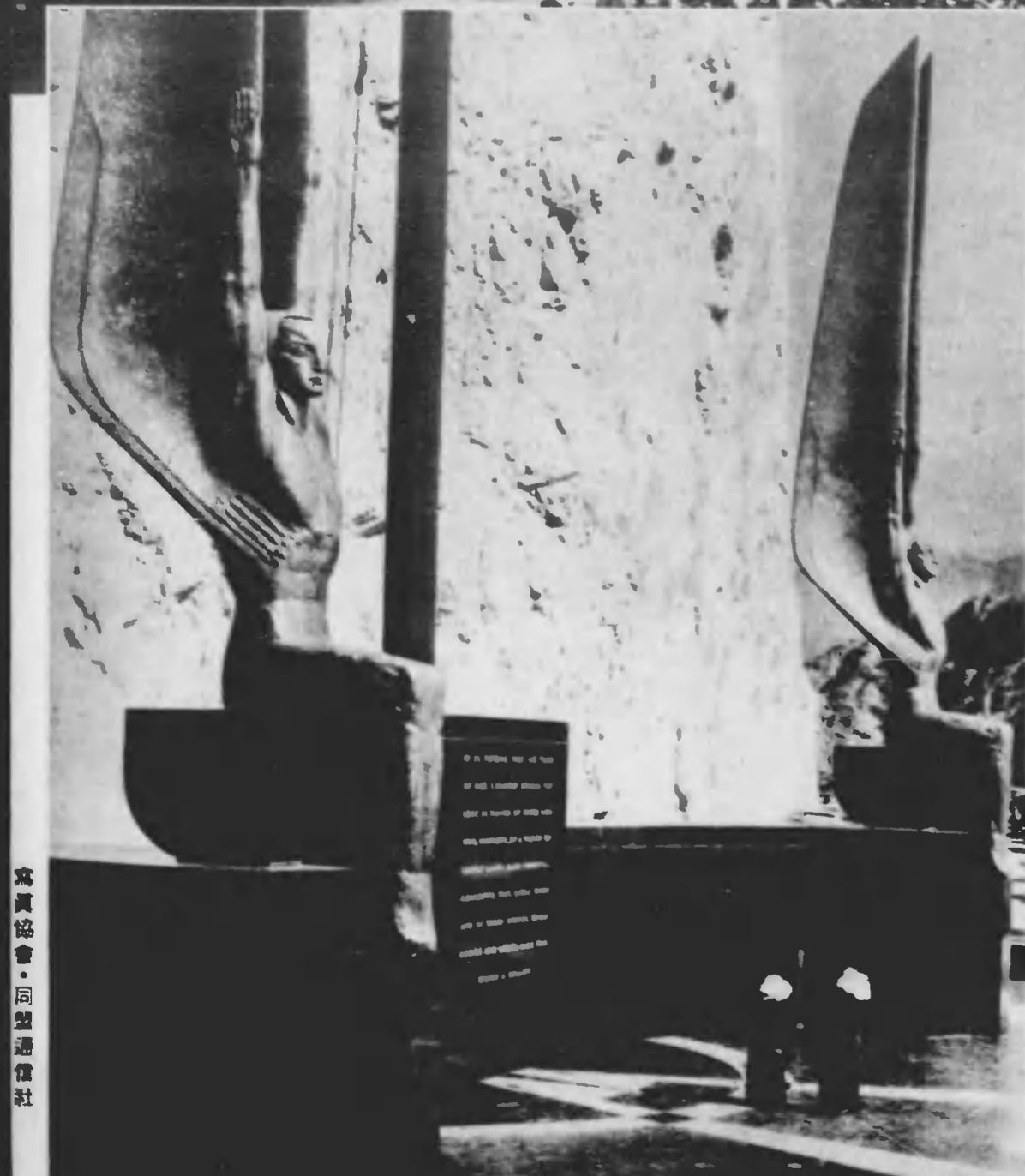


海外通信

宇宙観測の實驗氣球
 七萬八千呎の上空、成層圏内で宇宙観測の實驗をすべくアメリカ、フランス、ドイツ、イギリスの航空クラブ、学会でトマス・ジョンソン博士により實驗氣球があげられた。六個の水素氣球に六キログラムの精密な機械が吊られて空高く目もとどかぬ上空へ揚げられた。



ノーベル賞授賞式
 一九三八年度ノーベル賞(文学、物理、平和)は西暦スウェーデン首都ストックホルムのコンサート・ホールでキリスト王陛下自ら授賞者に授与された。文学賞受賞者は「大地」で有名なアメリカのバール・バック女史であった。(下右)



ドイツに最初の航空母艦生る
 ヴェルサイユ條約を破棄した新興ドイツは海軍たる意氣を以て國防の整備充實を急いでゐるが、かねてキール造船所で建造中であつた最初の航空母艦ツェッペリン伯爵がヒットラー總統、ゲーリング空相等金列の下に時々の進水式を行つた。裝備速力とも優秀を誇り歐洲列強の新らしい脅威となつてゐる。



星條旗大掲揚塔成る
 アメリカのコロラド河からひかれたネブラスカ州のボウルダダムにのぞむ一角に大國旗掲揚塔が竣工した。かつては砂漠に等しかつた不毛のこの土地に粒々辛苦の未發電ダムを造り肥沃にした科學と人力の勝利を永久に記念するものである。



写真協会・同盟通信社

東京週報 昭和十四年二月十二日 第三編 東京新聞社 昭和十四年一月十八日發行 第一冊 毎日發行 第四十八號



發育期の兒童に

肝油が一ばん必要な冬です

皮膚はもちろん、呼吸器や胃腸粘膜を胃はれ易い冬です。豫防には先づ脂肪性の栄養が必要で、就中、A.D.を多量に必要とします。この生理的要求を無視するとかぜを引きます。皮膚が荒れ凍傷になります。視力が衰へます。豫防には肝油ですハリバです。殊に皮膚や粘膜がまだ丈夫になり切らぬ發育期の兒童にハリバが必要です。寒さに對する抵抗力が弱いためかぜを引き易く、腺病質や結核もこのかぜから移行します。せめて冬だけはハリバを休まず續けて上皮の防禦を固めることです。ハリバは從來の肝油と全く異り、A.D.の極めて濃厚な高單位肝油を油塊のまま小豆大の糖衣粒としたもの。一粒は一盃の肝油に相當し、一日一―二粒で足り、臭くなくお腹にもたれず、どんな肝油嫌ひな兒童でも喜んで運用し得ます。

百粒三圓五十錢 五百粒十圓五十錢

内閣印刷局印刷發行

(郵法 郵便・A4規格定額は最大の書本)